

標準化された OS で IT 効率を 向上する

標準運用環境を構築
する際に検討すべき
9つの事項



目次

はじめに

3 IT 効率化のために必要な標準化

検討事項 1

5 IT インフラストラクチャを単純化する

検討事項 2

6 IT 資産を継続的に文書化する

検討事項 3

7 適切なレベルの柔軟性を維持する

検討事項 4

8 クラウド環境全体の一貫性を確保する

検討事項 5

10 インフラストラクチャを自動化する

検討事項 6

11 動的なスケーラビリティを組み込む

検討事項 7

12 階層化されたセキュリティアプローチを実装する

検討事項 8

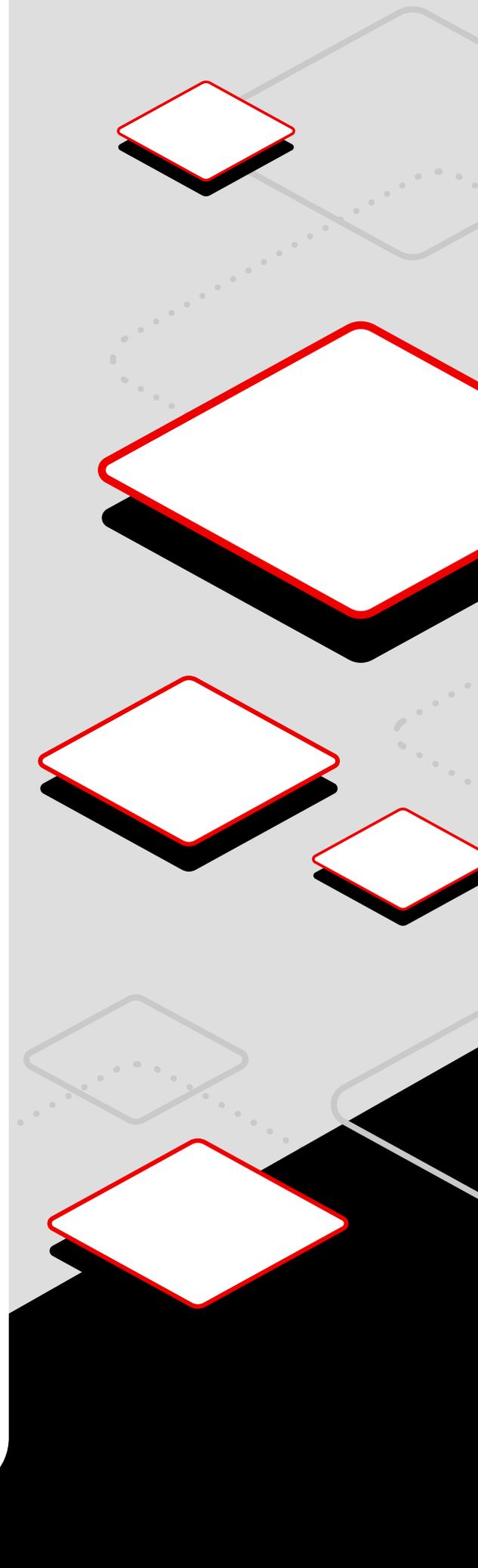
14 プラットフォーム管理ツールを統合する

検討事項 9

16 スキルギャップを特定し、解消する

まとめ

17 標準化する準備はできていますか？



はじめに

IT 効率化のために必要な標準化

IT チームは、顧客の進化するニーズをイノベーションでサポートするために、より多くのサービスをより速いペースで提供する必要があります。

しかし、ほとんどの組織が構築してきた IT インフラストラクチャでは、多数のベンダーやバージョンのオペレーティングシステム (OS)、サーバーハードウェア構成、運用管理ツールが混在しています。そのため、作成される IT 環境は通常、長年にわたって蓄積されてきた新旧のテクノロジーで構成され、複雑になり、これを適切に管理す

るには IT の高度なスキルを持つ大規模なチームが必要になります。こうした複雑な環境に伴う相互運用性の問題、面倒な管理、わかりにくいプロセスは、革新的なソリューションをより効率的に提供するという IT チームの使命の妨げとなる可能性があります。

ダウンタイムの増加、セキュリティとコンプライアンスのリスクの増大、その他の運用上の遅延を回避するために、IT チームは最適化されたアジャイルなインフラストラクチャを必要とします。

IT 環境を標準化することで、柔軟性の向上と効率化を支援できます。

標準化された OS を中心に構築される標準運用環境 (SOE) は、IT インフラストラクチャを大幅に単純化し、多様で統合されていない環境が直面する多くの課題を克服するのに役立ちます。

運用管理を効率化すると、運用コスト (OPEX) の減少、アップタイムの増加、プロビジョニングおよびデプロイの迅速化、IT 部門およびユーザーの生産性向上につながります。さらに、運用環境の可視性が向上すれば、アセット管理、セキュリティ、コンプライアンスが強化されます。



標準運用環境の主なメリット

標準運用環境は、IT チーム、ユーザー、およびビジネス全体に、多くのメリットをもたらします。それには次のような機能が含まれます。

- 自動化：ミスの発生しやすい手作業を自動化
- 一元化：システムライフサイクルの管理性を効率化
- 管理：ソフトウェアライセンスの使用とサブスクリプション契約のコンプライアンスの管理性が向上
- 高速化：ソフトウェアのインストール、アップグレード、パッチ適用にかかる時間を短縮
- セキュリティ：セキュリティを向上し、シャドー IT を削減

Red Hat Enterprise Linux で標準化することで、より多くの価値を獲得しましょう。

標準化に特に適した人気の OS は Linux® です。あらゆる業界や先進テクノロジーで広く導入されており、多大なビジネス上のメリットをもたらしています。

主要な Linux ディストリビューションである Red Hat® Enterprise Linux を使用すると、スキル、基準、プロセス、ベストプラクティス、管理ツールを維持できるため、クラウド移行の難しさとコストが軽減され、単一のコンソールからの単純化された管理が可能になります。Red Hat Enterprise Linux での標準化により、ワークロードがどこで実行されるのかに関係なく、それらを一貫して管理しながら、ビジネスをより効率的かつ効果的に運営することができます。

Red Hat Enterprise Linux で標準化すると、次のことが可能になります。

- クラウド、オンプレミス、コンテナ、ネットワークエッジなど、あらゆる環境間での一貫性と可搬性を備えたワークロードを迅速にデプロイすることで、**ビジネスアジリティを向上**できます。
- セキュリティ重視のプラットフォームを基盤として**セキュリティ体制を強化**します。
- Red Hat の数十年の経験に基づく Linux に関する専門知識のほか、カスタマイズされたトレーニングとコンサルティングサービス、Linux をより使いやすくアクセスしやすいものにするためのデプロイおよび管理ソリューションを活用することで、**スキルギャップに対処**できます。
- 管理時間を短縮し、リソースをイノベーションに集中できるようにする、一貫性のある管理ツールと開発ツールによって**運用効率を向上**させます。

Red Hat Enterprise Linux に基づいて SOE を構築すると、次のようなビジネス上の成果を達成できます。



最大 3 倍

データベースの
応答時間を短縮¹



最大 60%

IT 管理者によるサポート
とメンテナンスの所
要時間を短縮¹



最大 45%

IT の保守費用を
削減²

「Red Hat は、標準化に関して最も重要なオペレーティングシステムの実施オプションの 1 つです。Red Hat のオペレーティングシステムは、パフォーマンス、セキュリティ、運用管理の十分な理解に基づく堅牢なソリューションを提供します」³

Ali Elmalı 氏
Türk Telekom
クラウドサービス企画およびインフラストラクチャ
運用グループ マネージャー

¹ Red Hat 導入事例、「コロンビアのエネルギ企業が SQL Server に Red Hat を使用」、2020 年 9 月 14 日。

² Red Hat 導入事例、「Indesso、Red Hat で IT の保守コストを 45% 削減」、2020 年 7 月 1 日。

³ Red Hat 導入事例、「Indesso、Red Hat で IT の保守コストを 45% 削減」、2020 年 7 月 1 日。

IT インフラストラクチャを単純化する

標準運用環境において最も重要な要素はシンプルさです。

複雑な IT インフラストラクチャは管理と保守が難しい場合があり、その結果、ダウンタイムが増加し、効率が低下し、コストが上昇する一方、異種混合環境における既存のプロセスおよびデプロイの自動化がますます困難になります。

運用環境を標準化することで、複雑さや関連リスクを軽減するための助けとなります。標準運用環境では、物理リソース、仮想化リソース、クラウドベースのリソースを含め、インフラストラクチャ全体で定義済みのコンポーネント、インタフェース、およびプロセスを使用するようにします。すると、すべてのシステムを一貫した既知の基盤上で運用でき、インフラストラクチャと運用が効率化されます。

環境内におけるバリエーションが少なくなれば、システムのプロビジョニング、リソースのスケーリング、エラーのトラブルシューティング、その他の環境全体の問題の修正がより容易になります。また、標準運用環境を利用することで運用関連の手順やプロセスの単一化が可能となり、運用の高速化につながるとともに、チームがより大規模なインフラストラクチャを管理できるようになります。

Red Hat Enterprise Linux を標準化された OS として SOE を構築すると、単純で再現性のある管理業務が実現し、一貫性のあるツールとリソースがすべての IT 環境とワークロードに対応するため、運用効率を向上できます。

Red Hat Enterprise Linux はシンプルなので、システム管理者は (Linux を初めて使用する管理者でも)、物理環境、仮想環境、プライベートクラウド環境、パブリッククラウド環境で稼働する標準化された OS の複数のバージョンをより効率的かつ効果的に管理できます。

「Red Hat Enterprise Linux は安定していて商用サポートも提供されているため、当社は早期に Red Hat Enterprise Linux で標準化することを決定しました。セキュリティアップデートが組み込まれており、当社の自動車アプリケーションの多くと同様にライフサイクルが長い場合、レガシーバージョンを簡単に最新の状態に保つことができました」⁴

Gunther Mayer 氏
フォルクスワーゲン CAE インテグレーション R&D
インテグレーションスペシャリスト

4 Red Hat 導入事例、「フォルクスワーゲン、先進的なオペレーティングシステムでコンピュータ支援エンジニアリングをサポート」、2023 年 6 月 30 日。

IT 資産を継続的に 文書化する

文書化では、IT インフラストラクチャの仕組みをドキュメントに記録します。

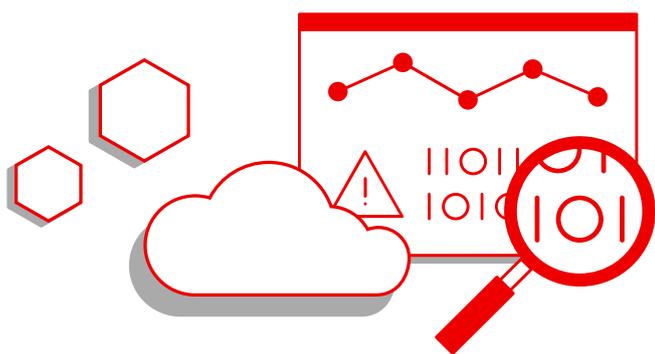
ビジネスが必要とする安定性、信頼性、アップタイムの要件をサポートするには、使用中のインフラストラクチャと運用体制について十分に理解する必要があります。コンポーネント、リソース、プロセスについての知識が不足していると、システム障害の増加、修理の遅れ、効率の低下につながる可能性があります。

これらの危険を回避するためには、インフラストラクチャの管理と運用に不可欠なドキュメントの作成と保守を適切に実践することが欠かせません。

これを実現するには、次の重要な手順に従うことを検討してください。

1. コンポーネントや構成からガバナンスポリシー、運用プロセス、自動化されたタスクに至るまで、インフラストラクチャ内のあらゆるものを完全に文書化しましょう。
2. 詳細なドキュメント群ができたら、環境に対するあらゆる変更を記録し、各ドキュメントのバージョン管理を行いましょう。
3. 環境に対するあらゆる変更について、IT チームとエンドユーザーに常に通知しましょう。

Red Hat Enterprise Linux で標準化することで、IT インフラストラクチャを簡潔かつ正確に文書化し、変更を容易に追跡するために必要な可視性を獲得できます。さらに、Red Hat Enterprise Linux をサポートするサプライチェーンが完全に文書化されているため、SOE 内のソフトウェアバージョンの追跡も容易になります。



ドキュメントに対するニーズは
職種ごとに異なる

通常、各リソースごとに、IT 組織内の異なる職務を想定した複数バージョンのドキュメントが必要になります。つまり、チームが効率的に作業できるよう、インフラストラクチャの各部分について、さまざまな方法で文書化できるようにしておくといでしょう。以下に例を示します。

- 開発者は、アプリケーションのコードが持つ目的を知る必要があります。この情報は通常、ソースコード内にコメントとして記載されています。
- IT 運用担当者に必要なのは、インストール、構成、管理、トラブルシューティングのプロセスを定める管理ガイドです。
- エンドユーザーには、タスクを実行するためのアプリケーションとリソースの使用方法を説明するマニュアルが必要です。

適切なレベルの柔軟性を維持する

変化する要求に対応していくためには IT の柔軟性が不可欠です。

IT インフラストラクチャの標準化には多くのメリットがある一方で、標準化が過剰になる可能性もあります。標準化の効果を最大限に高めるには、標準化の度合いと、組織が必要とする柔軟性やアジリティとの間でバランスを取る必要があります。

標準運用環境は、アプリケーション、仮想マシン (VM)、およびツールのために既知の基盤を形成するコアビルド (指定されたコンポーネント、インタフェース、およびプロセス群) に基づいています。数百から数千台に及ぶサーバーを運用する大企業では、業務を効率的に実行するための適切なツールを従業員に提供するには、複数のコアビルドが必要になる一方、小規模企業では必要なコアビルドはわずか数個だけである場合があります。

組織の規模に対して妥当なコア構成の数を定められるよう、入念な分析を行いましょ。しかし、そのレベルの標準化と柔軟性のバランスをさらに保ち、今日の動的でペースの速い市場で成功するためには、IT の柔軟性のレベルを大幅に向上する、標準化された OS が必要です。

Red Hat Enterprise Linux は、従来のワークロードのサポートに加えて、以下の機能により、イノベーションと成長のための柔軟なプラットフォームを提供することでこれを実現します。

ワークロード
移行の単純化

管理の複雑さの
軽減

開発からプロダク
ションへのパスの
最適化

Red Hat Enterprise Linux を使用するとさまざまな IT 環境で柔軟に運用できるようになるため、一貫性のある安定した OS イメージを作成する機能の強化が必要であることに注意することが重要です。

Red Hat Enterprise Linux ユーザーは、イメージビルダーツールを用いてそれを実行することができます。このツールは、Red Hat Insights (Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションに含まれる) を通じてホステッドサービスとして、またはオンプレミスツールとして利用できます。

イメージビルダーツールを使用すると、市場のすべての主要なクラウドプロバイダーおよび仮想化テクノロジーと互換性のある、カスタマイズ可能かつ再現可能な OS イメージ (インストールディスク、VM、クラウドベンダー固有のイメージなど) を作成できます。これにより、IT 環境全体で柔軟に運用しながら、一貫したプロビジョニングとデプロイを確保できます。

「Red Hat のオープンソース・テクノロジーは、大邱が将来進むべき方向性を示してくれました。今では、クラウド上に構築した、標準化された柔軟なシステムを通じて、より優れたサービスを提供できるようになりました」⁵

5 Red Hat プレスリリース、「大邱広域市と韓国土地住宅公社が韓国の Red Hat APAC Innovation Awards 2021 の受賞者に選出」、2021年10月13日。

Chan Yun 氏
韓国 大邱広域市 情報化室副理事

クラウド環境全体の 一貫性を確保する

クラウドの導入が拡大しており、組織はハイブリッド環境およびマルチクラウド環境全体で一貫性を確保する必要があります。

組織はクラウド・インフラストラクチャをデプロイすることにより、コストを削減し、柔軟性を向上させながら、最新のテクノロジーを利用できます。実際、現在のビジネス環境では、以下に示すとおり、クラウド・コンピューティングの人気が高まっています。⁶

72%

ハイブリッドクラウド戦略を実施している企業の割合

87%

マルチクラウド戦略を実施している企業の割合

59%

クラウド・テクノロジーを多用している組織の割合

50%

すべての企業ワークロードのうち、パブリッククラウドで実行されているものの割合

46%

すべての企業データのうち、パブリッククラウドに保存されているものの割合

⁶ 「Flexera 2023 State Of The Cloud Report」、Flexera、2023年3月8日。

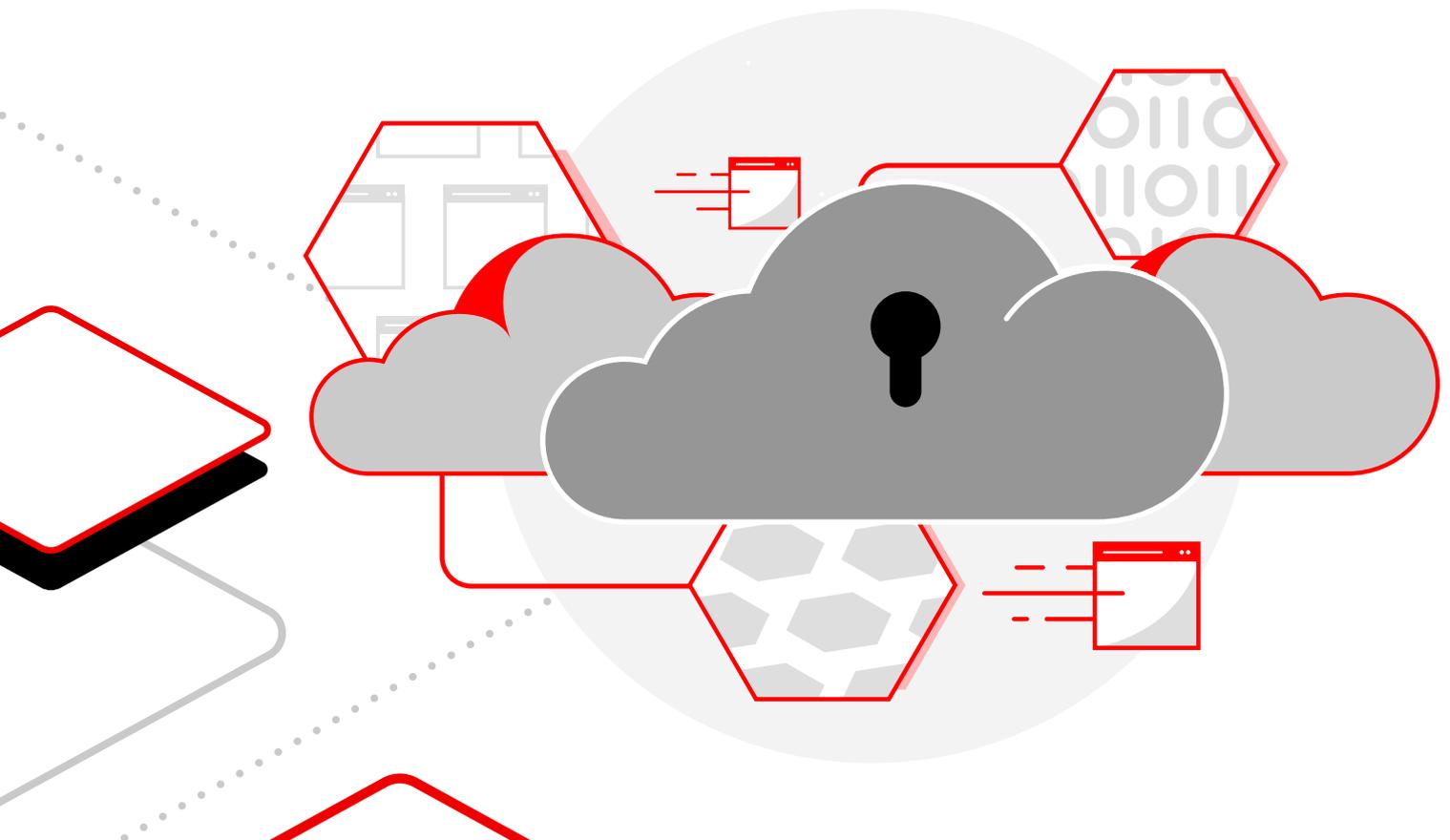
検討事項 4

クラウド・インフラストラクチャは、動的かつ弾力的にスケールリングできるよう設計されています。サーバーは、迅速なデプロイと自動構成が可能で置き換えも簡単な単一ワークロード用デバイスとして扱われます。このアプローチでは、システムは複数のレイヤーとコンポーネントに分解されます。これらのレイヤーとコンポーネントは簡単に組み合わせることができ、個別に解放できるほか、コレクションとして保守できます。

ハイブリッドおよびマルチクラウド・アーキテクチャは、オンサイトのインフラストラクチャとプライベートまたはパブリッククラウド・インフラストラクチャを組み合わせ、単一の環境へとまとめます。この構造のため、効果的なハイブリッド運用やマルチクラウド運用には一貫性が極めて重要であり、適切な OS で標準化することで、ハイブリッドおよびマルチクラウド環境に理想的なデプロイ戦略がもたらされます。

Red Hat Enterprise Linux は、物理環境、仮想環境、コンテナ環境、クラウド環境にわたって一貫性を提供するため、どこにデプロイされるかに関係なく、一貫した管理ツールを利用でき、常に同じように動作します。これにより、標準化の基盤として、一貫性を損なうことなく、ビジネスの進化に合わせてインフラストラクチャを変革するために必要なアジリティが得られます。

また、ハイブリッドまたはマルチクラウド環境全体でスキル、基準、プロセス、ベストプラクティス、管理ツールを保持するとともに、一貫性、柔軟性、可搬性も維持しながら、ニーズの変化に応じてアプリケーションとワークロードを配置したり移動したりすることが可能になります。



**標準運用環境の管理を一元化
して効率化**

標準運用環境のコアビルドを一元的な管理プラットフォームで管理することで、デプロイ先のインフラストラクチャを気にすることなく、完全にプロビジョニングされたシステムを数分で提供できます。

Red Hat Enterprise Linux イメージビルダーツールを使用すると、作成した SOE イメージからクラウドにホストをデプロイできるため、このプロセスが単純化され、数回クリックするだけで同一の SOE イメージからホストを起動できるようになります。

[詳細はこちらのブログをお読みください。](#)

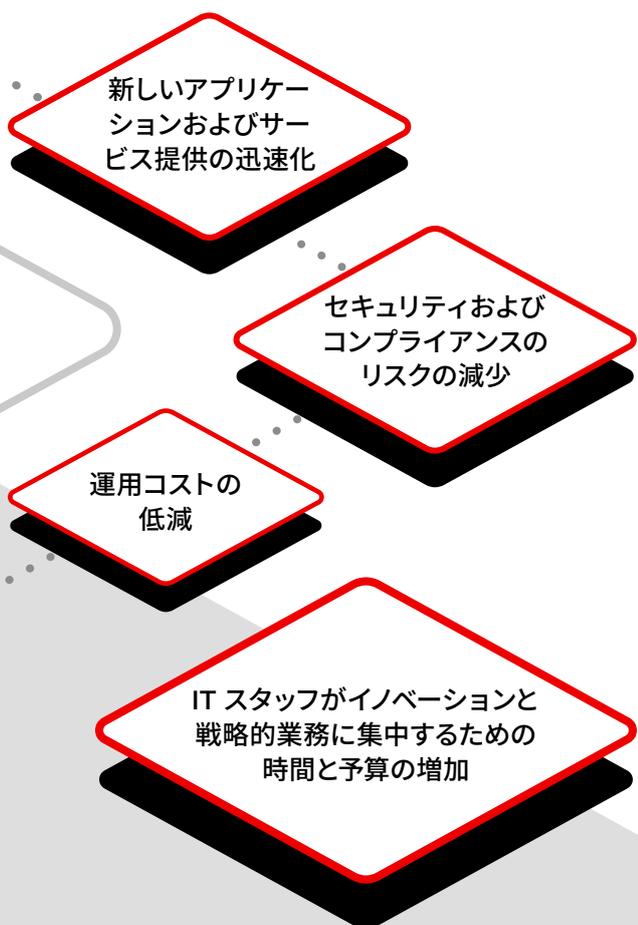
インフラストラクチャを自動化する

自動化により、IT チームは価値の高いプロジェクトに集中できるようになります。

手動による運用には、ペースの速いデジタル世界で成功するために必要な速度、効率、精度が欠けています。実際、86%の組織が、IT 支出を管理する際の課題として、手作業が多すぎることを挙げています。⁷

自動化により、面倒で時間のかかる手動タスクの処理を迅速化できるため、IT チームはより多くのビジネス価値を提供するプロジェクトに時間と労力を集中させることができます。また、自動化を行うことで、新しいリソースとサービスを迅速にプロビジョニングし、IT 環境全体で一貫性を確保しながら、インフラストラクチャの日常的な保守業務を行うために必要な IT スタッフの人数を抑えられます。

これらの改善により、組織に次のような多くのビジネス上のメリットが得られます。



しかし、自動化は「0 か 100 か」といった二択ではありません。自動化を進めていくためには持続的な戦略が必要です。すべての自動化資産を定期的に文書化およびレビューして、それらが理解され、計画どおりに機能していることを確認しましょう。ヒューマンリーダブルな形式で自己文書化される自動化フレームワークを使用することで、これらの作業を大幅に単純化できるほか、すべてのスタッフが取り組みに貢献できるようになります。

Red Hat Enterprise Enterprise Linux での標準化により、組織全体の自動化の実装を単純化する、一貫性と再現性のある管理業務が実現するとともに、以下のことが可能になります。

- **セキュリティ制御を自動化して、脆弱性にさらされるリスクを軽減します。**
- **Red Hat Insights の自動化機能とインテリジェンス機能により、プロビジョニング、構成、監査を実行し、リスクの予測、アクションの推奨、コストの分析を改善します。**
- **事前にパッケージ化され、サポートされている自動化により、Red Hat Enterprise Linux の機能の実装とスケールリングを単純化し、複数のシステム間での構成とスケールリングを加速します。**
- **Red Hat Enterprise Linux システムロールと、それらが自動化する共通サービスおよび構成タスクの広範なライブラリにより、一貫性のある構成とワークフローを大規模に作成します。これらのシステムロールは、Red Hat Enterprise Linux システムの管理および構成の自動化に役立つ Ansible® Content Collections から構築されています。**
- **Red Hat Enterprise Linux イメージビルダーによって、標準 OS テンプレートを自動的に作成して起動し、ハイブリッドまたはマルチクラウド環境全体で迅速かつ一貫したデプロイを実現します。このイメージビルダーツールは、クラウド、VM、またはイメージへのデプロイ方法の詳細を自動的に処理するため、時間を大幅に節約できます。**

⁷ 「Flexera 2022 Tech Spend Pulse」、Flexera、2022年6月8日。

動的なスケーラビリティを組み込む

IT 分野においては特に、変化は避けられません。これに対処するためには、動的なスケーラビリティが必要です。

時間の経過とともに、特定のサービスに対する需要や負荷は変動します。静的インフラストラクチャは、これらの変化に対応できません。ピーク時の需要に対応できるように容量をオーバープロビジョニングする従来の手法では、システムを長期間にわたってアイドル状態のままにしておいた場合、そこにかけられている予算は無駄に消費されることになります。

それに対応するには、インフラストラクチャを動的かつ弾力的にスケーリングする必要があります。システムに共通基盤を使用すると、効率性に優れたインフラストラクチャを維持しながら、迅速にスケールアップやスケールダウンを行えます。

標準化された OS を導入することで、インフラストラクチャに動的なスケーラビリティを組み込むことができます。環境全体で共通する共有基盤があれば、各システムはそれぞれ単一のアプリケーション専用にならず、多様なサービスを提供できます。この場合、同じリソースを同時に複数のサービスに割り当てることで、オーバープロビジョニングを行わずに、需要の変化に適応できます。

このアプローチなら、クラウド・テクノロジーを活用するための準備にもなります。通常時はコンパクトな IT インフラストラクチャをオンサイトで運用して1日の平均的なニーズを満たし、ピーク時にはクラウドリソースをデプロイして、増加した需要に対応できます。

Red Hat Enterprise Linux で標準化すると、以下の機能によってこの動的なスケーラビリティのニーズがサポートされます。

- デプロイメントを大規模に標準化することで実現する、**一貫性と再現性のある管理業務**
- あらゆる環境で、既存アプリケーションのスケーリングと、先進テクノロジーの一貫したロールアウトを可能にする **セキュリティ重視の基盤**
- アプリケーションの配置場所に関係なく、一貫した方法でのデプロイと管理を可能にし、ワークロードの移行を単純化するために **必要な可搬性**
- ハイブリッドおよびマルチクラウド環境でのアプリケーションのスケーリングをよりシンプルにするための **一貫性のあるツールとトレーニング**
- Red Hat Enterprise Linux 機能の実装とスケーリングを **単純化するシステムロール**

「このプロジェクトの成功は、この環境で日々作業する 800 名の人々にとって不可欠でした。Red Hat ソリューションのおかげで、プロジェクトをより迅速にスケールアップし、組織の成長を加速することができます」⁸

⁸ Red Hat 導入事例、「TTTech、Red Hat で仮想化環境を自動化」、2020年1月31日。

階層化されたセキュリティ戦略の基盤を構築する

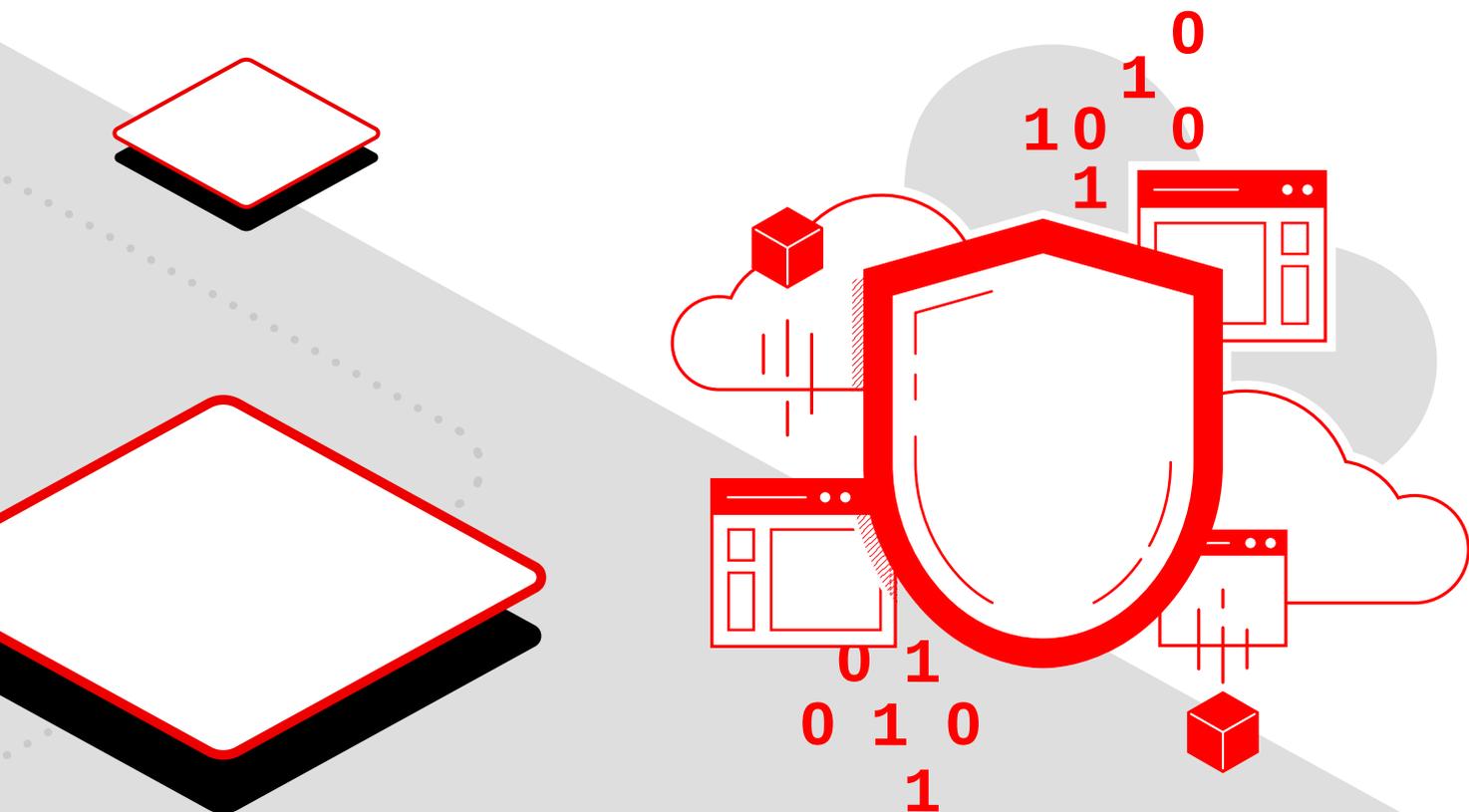
セキュリティは依然として組織にとって最大の懸念事項ですが⁹、適切な OS が助けとなります。

効果的なセキュリティ戦略では、一元的な ID 管理システムを使用してシンプルな認証チェックを行うだけでなく、はるかに多くの要素が関わります。効率的なリスク管理、データの保護、ユーザー認証とアクセスポリシーの提供、データの暗号化、正しいシステム構成の維持、管理されたデプロイ全体でのコンプライアンス義務の強化には、階層化されたセキュリティ戦略が必要です。

これを単独で実現できるソリューションはありませんが、適切な OS を使用すれば、システムセキュリティへの注力を強化し、他のソリューションと統合して、インフラストラクチャ全体に階層化されたセキュリティ戦略を実装するための基盤を確立できます。

さらに、標準化された OS を使用することで、インフラストラクチャ・スタックの複数の層にわたるセキュリティ対策統合の一貫性を向上し、IT 環境全体でセキュリティプロトコル管理の複雑性を軽減できます。

セキュリティと安定性はあらゆる運用環境の基本要件ですが、ワークロードとアプリケーションの構築、実行、拡張に適した、セキュリティ重視のオープンソース・プラットフォームを見つけるのは困難な場合があります。



9 「Flexera 2022 Tech Spend Pulse」、Flexera、2022年6月8日。

検討事項 7

Red Hat Enterprise Linux は、階層化されたセキュリティ戦略の構築に必要な、以下の機能を備えた基盤を提供します。

- **組み込みのセキュリティ機能** (自動化されたセキュリティ制御など) とセキュリティプロファイル
- **重要なセキュリティ・アップグレードとライブパッチ**。多くの場合、重大な脆弱性が公開されてから 24 時間以内に提供
- **ほとんどの政府および業界の規制に対するセキュリティ標準認証**
- Red Hat が提供するすべてのコンポーネントを検証する、セキュリティ重視のソフトウェア**サプライチェーン**
- **プロアクティブな分析**、脆弱性アラート、ターゲットを絞ったガイダンス、修復プレイブック

効果のないセキュリティは高くつく

セキュリティの脅威は増す一方で、情報漏洩によって生じるコストは常に高額です。その結果、次のような問題が発生します。¹⁰

4.45 万米ドル

2023 年のデータ漏洩の平均損害額

204 日

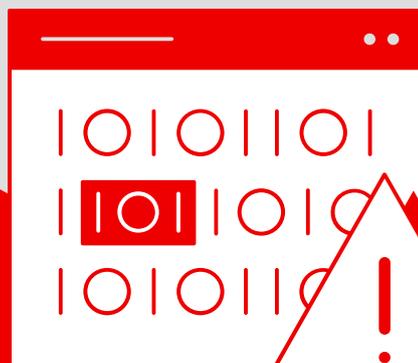
2023 年のデータ漏洩の特定と阻止にかかった平均時間

1.02 万米ドル

漏洩を 200 日以内に特定し阻止することで節約できるコスト

「当社のお客様は、より安全で堅牢なオペレーティングシステムを必要としていました。それが Red Hat Enterprise Linux によって提供されました」¹¹

Emilio Barcelos 氏
Alstom ウェイサイドインテリジェンスおよびアナリティクス
プロダクトマネージャー



¹⁰ 「2023 年データ侵害のコストに関する調査レポート」、IBM、2023 年 7 月 24 日。

¹¹ Red Hat プレスリリース、「エッジコンピューティングとオープン・ハイブリッドクラウドによる鉄道通信」、2021 年 4 月 26 日。

プラットフォーム管理 ツールを統合する

効果的な管理は、IT 環境からより大きな価値を引き出すために役立ちます。

大規模な IT 環境では、高度な管理ツールとアプローチが重要です。標準化された OS と一貫性のある関連ツールに基づく包括的な管理戦略を導入すると、アセットとビジネスを保護するとともに、IT 環境を最大限に活用するための助けとなります。

標準運用環境を定義する際は、選択したプラットフォームで利用できる管理ツールを考慮しましょう。これらのツールは IT 運用の中核を形成するものであり、チームが生産性を発揮するために必要な特長や機能を提供できるよう、互いに連携する必要があります。理想的なツールは、システムのライフサイクル管理、セキュリティの脆弱性とコンプライアンスを効果的に管理するためにも役立ちます。

プラットフォーム管理ツールの主な機能

システムのライフサイクル管理

- システムを**構築およびスケール**グ
- システム、アセット、サブスクリプションを**監視して追跡**
- システムを一貫して**保守、パッチ適用、更新**
- 不要になったシステムとリソースを**廃止**

セキュリティ脆弱性とコンプライアンスの管理

- 非準拠、脆弱、またはパッチが未適用のシステムを**特定**
- 労力、影響、問題の重大度に応じて修正アクションを**整理**
- システムに**効率的にパッチを適用**
- **変更を検証し、結果を報告**



IT 管理のベストプラクティス

適切な管理ツールの選択はほんの始まりに過ぎません。IT 環境の価値を最大化するには、それらのツールを使用して運用プロセスを定義する必要があるからです。

- 放置されたリソースや未使用のリソースを廃止し、コストを節約
- 自動化を導入することで、一般的なタスクを効率化し、エラーを減らす
- 管理、自動化、およびセキュリティツール同士を接続し、生産性を向上
- システムを定期的にスキャンし、コンプライアンスの問題とセキュリティ脆弱性の特定を迅速化
- システムへのパッチ適用を頻繁に行い、パッチをテストしてシステムを最新の状態に保つ

IT 管理のベストプラクティスに関する詳細は、[eブック「成功するための Linux 環境管理」](#)をご一読ください。

「Red Hat Insights によって、セキュリティ強化の機会を特定し、リスクを迅速に管理できるようになり、その結果、チームの作業時間が節約され、システムのセキュリティが向上しています」¹²

Timothy Runion 氏
DIRECTV セキュリティアーキテクト

¹² Red Hat のお客様からのフィードバック、「Red Hat お客様成功事例スライド資料 (スライド 600)」、2022 年。

スキルギャップを特定し、解消する

ハイブリッドおよびマルチクラウドの使用が拡大し続け、企業のワークロードが存在する IT 環境の多様化が進む中、多くの企業では、ハイブリッドまたはマルチクラウド環境を効果的かつ効率的に管理する能力を制限する可能性のあるスキルギャップに直面しています。

こうしたスキルギャップに対処するには、適切な OS で標準化することが重要です。これにより、1 つの統一された運用環境の下で、一貫性のあるツールとトレーニング、そしてそれらのプロセスを管理するために必要な人員とリソースを用いてプロセスを最適化することができます。

人員とリソースを最適化してスキルギャップを解消する Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションの機能には、次のようなものがあります。

- **独自のリソースおよびツールの共有ライブラリへのアクセス、数十年にわたり蓄積してきた Linux の専門知識へのアクセス。** IT 環境を最適化し、運用上の問題に迅速に対処し、Linux 初心者への参入障壁を低減するのに役立ちます。
- **Red Hat Insights のプロアクティブな分析および修復ツール。** 効率を向上させ、ワークロードを効果的に管理するためにどのようなスキルを開発する必要があるかをスタッフに通知するのに役立ちます。
- **保証付きのサービスレベル契約 (SLA)。** Red Hat Enterprise Linux の Premium サブスクリプションでは重大度 1 の問題に対する 24 時間年中無休のサポートが利用可能です。
- **Red Hat 製品エンジニアによる追加サポート。** サポートチームとハードウェアおよびソフトウェアベンダーの両方と緊密に連携してお客様の課題を解決します。

この一貫性によって、ハイブリッドまたはマルチクラウド環境間でアプリケーションを移動する際にスキル、基準、プロセス、ベストプラクティス、管理ツールを維持できるため、アプリケーションの管理に必要な人員とリソースが削減されます。

Red Hat Enterprise Linux を標準運用環境として導入することで、IT チームは一貫性のあるツールとトレーニングを利用して、ハイブリッドまたはマルチクラウド環境でのアプリケーションの開発、デプロイ、スケーリングを単純化することができます。

スキルギャップの解消に役立つその他の有益なサービスには次のようなものがあり、サブスクリプションのアドオンとして購入できます。

- **Red Hat トレーニングと認定。** チーム内のスキルギャップを解消し、優秀な人材の定着率を高めるのに役立ちます。
- **カスタマイズされたトレーニング。** ハイブリッドまたはマルチクラウド環境内でワークロードを管理するために必要なスキルをチームが確実に習得できます。
- **カスタマイズされたコンサルティングサービス。** 組織内で必要なハイブリッドまたはマルチクラウドの専門知識が不足している場合、そのギャップを解消します。また、固有の課題を克服するソリューションをカスタマイズして提供します。
- **セキュリティを重視した専任の Red Hat テクニカル・アカウント・マネージャー (TAM)。** インフラストラクチャがエキスパートの手に委ねられていることを確信し、チームの負荷を軽減できます。

拡大するクラウドのスキルギャップ

クラウドに移行する企業が増えるにつれ、組織内のスキルギャップがより顕著になってきています。調査によって、以下のことがわかりました。¹³

わずか 8% クラウド環境のデプロイと管理に関してスキルの課題を抱えていない企業の割合

¹³ IDC InfoBrief (Red Hat 後援)、「Why Enterprise Linux is Becoming More Relevant for Hybrid Cloud」、Document #US50679023、2023 年 6 月。

まとめ

Red Hat Enterprise Linux で標準化する準備はできていますか？

Red Hat Enterprise Linux で標準化のメリットについて、柔軟性と一貫性のある SOE の基盤の構築に Red Hat Enterprise Linux の独自の機能がどのように役立つかなど、[詳細](#)をご覧ください。また、Red Hat Enterprise Linux を使い始めるには [Red Hat にお問い合わせ](#) ください。

Red Hat について



エンタープライズ・オープンソース・ソフトウェア・ソリューションのプロバイダーとして世界をリードする Red Hat は、コミュニティとの協業により高い信頼性と性能を備える Linux、ハイブリッドクラウド、コンテナ、および Kubernetes テクノロジーを提供しています。Red Hat は、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、既存および新規 IT アプリケーションの統合、複雑な環境の自動化および運用管理を支援します。受賞歴のあるサポート、トレーニング、コンサルティングサービスを提供する Red Hat は、フォーチュン 500 企業に信頼されるアドバイザーであり、オープンな技術革新によるメリットをあらゆる業界に提供します。Red Hat は企業、パートナー、およびコミュニティのグローバルネットワークの中核として、企業の成長と変革を支え、デジタル化が進む将来に備える支援を提供しています。

アジア太平洋

+65 6490 4200
apac@redhat.com

オーストラリア

1800 733 428

インド

+91 22 3987 8888

インドネシア

001 803 440 224

日本

03 4590 7472

韓国

080 708 0880

マレーシア

1 800 812 678

ニュージーランド

0800 450 503

シンガポール

800 448 1430

中国

800 810 2100

香港

800 901 222

台湾

0800 666 052



fb.com/RedHatJapan
twitter.com/RedHatJapan
linkedin.com/company/red-hat